

# 理 事 長 所 信



2017年度（第三年度）

一般社団法人 北名古屋青年会議所



第三代 理事長  
田 島 雄

**【経歴】** (法人格省略)

2007年度	豊橋青年会議所	[入会]
	豊橋青年会議所 経営者育成委員会	[委員]
	愛知ブロック協議会 ブロックアカデミー委員会	[委員]
2008年度	豊橋青年会議所 防災ネットワーク構築委員会	[副委員長]
2009年度	豊橋青年会議所 豊橋の魅力発信委員会	[委員]
	愛知ブロック協議会 ブロックアカデミー委員会	[会計幹事]
	日本青年会議所 J Cプライド実践委員会	[委員]
2010年度	豊橋青年会議所 総務広報委員会	[副委員長]
2011年度	豊橋青年会議所 総務広報委員会	[委員]
2012年度	豊橋青年会議所 人と社会の「縁」育成委員会	[委員]
2013年度	豊橋青年会議所 会員拡大委員会	[委員]
2014年度	豊橋青年会議所 J Cアイデンティティ確立委員会	[委員]
	豊橋青年会議所	[退会]
2015年度	北名古屋青年会議所	[入会]
	北名古屋青年会議所	[理事]
	北名古屋青年会議所 J A Y C E E 育成委員会	[委員長]
2016年度	北名古屋青年会議所	[理事]
	北名古屋青年会議所	[事務局長]

## 進化

～強みの上に築く新たなる一歩～

### 【青年会議所の強み】

『何事かを成し遂げるのは、強みによってである。弱みによって何かを行うことはできない。できないことによって何かを行うことなど、到底できない。』  
(ピーター・ドラッカー)

私たち青年会議所が、地域の「明るい豊かな社会の実現」に向けた運動を展開する上で、「強み」に焦点を合わせ、その「強み」を以って、「何ができるか」を問うことによって、より意義のある社会貢献を成し遂げることができると私は考えている。「強み」は、周囲に示すことで活かされ、人の役に立つことで磨かれる。

青年会議所の「強み」は、20歳から40歳までの青年世代の会員で構成される「若さ」、様々な職種に従事する会員で構成される「多様性」、国際的なネットワークを持つ「組織力」である。

この地域での認知度が高いとは言えない今の北名古屋青年会議所において、これらの「強み」を活かした運動を展開することによって、この地域での存在意義を示し、この地域から必要とされる存在へと近づくことができる。また、会員の運動に対する目標水準とこの地域への貢献意欲を高め、自発的に考える姿勢を育むことができる。

## 【VSOP運動による「共感経済社会」の実現】

先進国における資本主義は、インターネット革命など、現代技術の革新的な変化の中で、元来の価値基準である貨幣などの「物質的な豊かさ」の追求だけでは、豊かさを測り得ない状況を迎えている。すでにCSR（企業の社会的責任）やCSV（共通価値の創造）といった思想が広がり、社会性と経済性が両立した活動を行う社会的企業が注目を集め、「心の豊かさ」を価値基準とした経済活動が広まりつつある。

私たちの<sup>まち</sup>地域でも、公益社団法人日本青年会議所本会で2016年度から始まった「VSOP（Volunteer Service One day Project）運動（本業を通じた社会貢献）」を推進する。この運動を推進することで、地域の「目に見えない資本（知識・関係・信頼・評判・文化など）」、つまり「心の豊かさ」を生み出し、地域での良循環型の経済活動によって、社会全体が潤う「共感経済社会」の実現を目指す。また、異業種の企業や様々な団体が協力・協働することで、お互いの知恵や知識の交換による新たなアイデアが生まれ、地域社会との関係性が深まる。さらに、地域住民からの企業や団体に対する信頼・評判が高まり、地域内で循環する経済活動の広がりから地域活性化へと繋がる。

この<sup>まち</sup>地域の「明るい豊かな社会の実現」を目指す北名古屋青年会議所にとって、会員一人ひとりの「強み」（＝社業）を集結したVSOP運動の推進は、まさに「<sup>まち</sup>地域づくり・ひとづくり」の根幹と言える。そして、この<sup>まち</sup>地域の企業や団体、そして、市民を巻き込んだ運動へと発展させていくことこそ、この<sup>まち</sup>地域を牽引する私たち青年経済人の使命である。

## 【キャリア教育による「生きる力」の育成】

知識基盤社会（新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要を増す社会）の到来といわれる社会環境の中で、子どもたちの教育に対する学校や家庭、また、地域や企業の役割が問われている。子どもたちは、学校や家庭を中心に知識・常識を身につけ、また、多くの大人と触れ合い、多様な体験の中で、生きていく知恵や社会のしくみを学び、たくましく「生きる力」を身につけていかなければならない。このような子どもたちの「生きる力」を育む重要な基盤は、学校教育が中心であるが、実社会における多様な体験と相まって育まれ成長していくもので

あり、学校の内外で子どもたちの「生きる力」を育むことができる体制を築いていくことが不可欠である。

北名古屋市は、全国に先駆けて、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」を導入しており、学校と地域が連携を図りながら、子どもたちの豊かな成長を支えている。私たち青年会議所もまた、この地域での役割を認識し、企業人が集う団体としての「強み」を活かした教育支援活動によって、子どもたちの豊かな成長を支えていかなければならない。

私たちは、子どもたちの将来のために、体験的な学習活動の機会を設け、それらの体験を通して、子どもたちに自己と社会の双方に多様な「気づき」や「発見」を体得させることで、子どもたちの勤労観・職業観を育成するとともに、子どもたちが将来の夢や目標に向かって、自ら学び、自ら考え、自ら行動できる「生きる力」の育成を目指す。このような子どもたち一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて、必要な能力や態度を育てる教育が「キャリア教育」である。

この地域の次世代を担う子どもたちが「生きる力」を身につけ、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟且つたくましく対応し、自立的に未来を切り拓いていくことが肝要である。

### 【北名古屋市の強み（特色）を活かした地域づくり】

我が国では、人口減少、少子高齢化が今後急速に進展すると見込まれているが、この大きな課題に対し、各地域がそれぞれの強み（特色）を活かしながら活力ある地域の実現に向けて様々な取り組みを進めている。

北名古屋市は、ほぼ全域が名古屋都心部から10km圏内にあり、鉄道や高速道路といった交通網が整備された利便性からも近年では名古屋市のベッドタウンとしての住宅都市、商業・物流・産業都市として発展を続けている。

また、濃尾平野のほぼ中央に位置し、平坦な地形の中に、新川、五条川、合瀬川、水場川などの河川が流れており、旧来から農業を中心に発展を続けてきた。名古屋市近郊にありながら農地が市域の約3割を占め、都市と田園風景の景観が共存する魅力ある地域である。

私たち青年会議所は、これら地域の強み（特色）の中から、地域資源を活かし、昨年度から“産学官民”協働で取り組んできた『田んぼアート事業』による

地域づくりの推進を継続する。

本事業を通して、産学官民コミュニティ（「産」「学」「官」「民」異なる分野に属する「ヒト」と「ヒト」との繋がりを生み出す「場」）による地域の連携強化を図るとともに、地域の魅力を高めていくことによって、「産学官民」協働の愛市精神溢れる地域づくりの実現を目指したい。

### 【強い組織を築く】

強い組織とは、組織に属する全員が共通の目的を持ち合わせ、一人ひとりが担う役割とその意義を理解し、主体的に行動することによって、目的達成に向かっていく組織のことをいう。強い組織には、「良い人財」が集まり、「良い組織風土」が築かれている。これらは、組織に属する一人ひとりの高いスキルと継続的な行動によってつくられるものである。「役職が人を育てる」と言われるように、人は何かの役割を与えられ、それに適するための努力を重ねることで成長を遂げる。

組織は人なり、人こそ財産である。十数名の会員数でスタートする本年度の北名古屋青年会議所にとって、まずは、会員一人ひとりが組織に欠かせない人財であることを自覚し、組織で担う役割と責任を果たしてほしい。また、運動を通して得られる多様な体験の中で、自己を磨き、成長していく姿勢を常に持って取り組んでほしい。

運動の基盤となる強い組織を築いていくことが、未来に向けた私たち現役会員の使命であり、責任でもある。そのためには、会員一人ひとりが自発的な姿勢で運動に取り組める環境を築いていかなければならない。本年度は、会員一人ひとりの「強み」を組織運営に最大限発揮できる適財適所の人員配置によって、円滑な組織運営を図るとともに、会員の拡大と育成に最重点を置いた組織力の強化に努めていきたい。

### 【魅力ある人財が「共感」をもたらす】

青年会議所の会員は、20歳から40歳までの限られた時間の中で活動しており、それは新たな仲間を積極的に迎え入れ続けなければ、会員数が減少していくことを意味する。すなわち、私たち青年会議所が永続的に運動を展開する

ためにも、会員拡大は最重要課題であり、会員一人ひとりが問題意識を持って解決していかなければならない。

会員拡大を行う上で重要なことは、私たち J C メンバーが魅力的な人財であるかどうかである。昔から「魅力的な人がいる場所には、人が集まる」と言われるように、私たち J C メンバーが人を惹きつけることのできる魅力ある人財となることで、「共感」をもたらすことができるのである。

会員一人ひとりの自覚と誇りある言動を以って、北名古屋会議所の魅力を発信し続けていくことで、共に活動する多くの同志を募っていきたい。

### 【戦略的かつ効率的な P R 活動によるブランディング】

ブランディングとは、ブランドに対する共感や信頼など、ユーザーにとっての価値を高めていく企業・組織のマーケティング戦略のことをいう。ブランディングを行う上で、「誰が、誰に、何を、どのように伝えるか」というコンセプトや戦略を明確にし、共感や信頼を得ることが必要である。

私たち青年会議所は、地域の「明るい豊かな社会の実現」のために、「市民意識変革運動」を標榜する団体である。だからこそ、市民に対し、青年会議所の理念や方向性を明確に示し、ひとりでも多くの市民から「共感」を集め、「信頼」を獲得していかなければならない。

そのためには、これまでに行ってきたホームページや F a c e b o o k による情報発信に加え、行政の発行する広報誌や地元マスメディアを戦略的に活用し、私たちの運動をこの地域の人々のもとへ効率的に届けられる P R (Public Relations) 活動を継続的に行うことによって、「北名古屋 J C」のブランディングを進めていくことが必要である。

### 【名古屋市との合併構想】

2016年9月1日の北名古屋市議会定例会において、北名古屋市長より、名古屋市との合併について検討する意向が表明された。この合併構想は、2027年のリニア中央新幹線開通に伴うこの地域の発展や防災・福祉・教育・交通など、市民生活の更なる向上に取り組むためとされている。

仮に名古屋市との合併に至った場合、市民にとっては、高水準の行政サービ



スが受けられる、イメージアップによる転入者増や不動産価格の上昇、大規模災害への防災対策の改善、幹線道路などのインフラ整備や名古屋市バスの乗り入れが可能になるなど、多くのメリットが挙げられている反面、人口比率からも現在の議会定数が大幅に削減されることが予想され、住民の声が市政に反映しづらくなるなど、デメリットも挙げられている。

この合併構想について、私たち青年会議所は中立的な立場で、市民が合併の可否を判断するための情報をしっかりと届けていかなければならない。また、同時に、私たち北名古屋青年会議所の未来についても、議論を重ねていかなければならない。

### 【むすびに】

設立から今日に至るまで、スポンサーLOMである公益社団法人名古屋青年会議所をはじめとする各地青年会議所及びそのメンバー諸君、先輩諸兄、そして、地域の行政、各種団体と本当に多くの皆様にご支援とご協力を賜りながら、活動できていることに心から感謝したい。

私たちは、そのような支援、協力に応えるためにも、「今しかできないこと」、「北名古屋」J Cだからできること」へ果敢に挑戦し続け、JAYCEEとしての自覚と誇りある言動を以って、多くの市民を巻き込んだ運動を展開し、地域の「明るい豊かな社会の実現」に向けて突き進んでいきたい。

『心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。』

(ウィリアム・ジェームズ)

自分と未来は変えられる

今こそ私たちは、「進化」を遂げなければならない

強みの上に自らを築き、新たなる一步を踏み出していこう

そして、共に未来を切り拓いていこう

すべては「明るい豊かな社会の実現」のために